



【#1: シアトル近郊・シュアライン地区】 〈1952年・築72年〉

リモデル概要: 200㎡・2世帯・総費用8,000万円
建築様式: ソルトボックス型(過去に増築)
3ベッド・バス・地下室無し・屋根裏部屋あり
ガレージをオフィスへ・内外装含む全面改修
施工: IRONS

☆ After



【シアトルの住宅事情】

ワシントン州シアトルのマスタービルダー協会主催「リモデル住宅視察・講習会」に今年も参加しました。ガソリン・日用品・住宅資材・労賃などあらゆる価格が高騰し、シアトル近郊の新築住宅価格は1億円以下の物件を探すのはほぼ難しい状況。市況は確実に新築から既存住宅のリモデルへと向かっています。あのCNNでさえその現実を報じています。

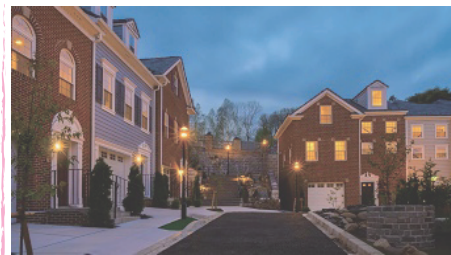
結果的にリモデル済みの買得物件に購入希望者が集中。シアトルはTEC企業に勤める富裕層が多くサンフランシスコに比べ割安感があり投資としても人気。大統領選挙前に「移民の購入資金2千万円配布」という現政権のビッグマウスの移民政策は全米の住宅不足に拍車をかけています。

米国取材: 大竹 清彦



日本の住宅はどうなる? 日本の住宅の維持向上に向けて(第29回)

「田園調布に家が建つ…」

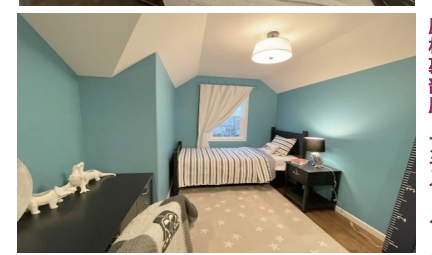
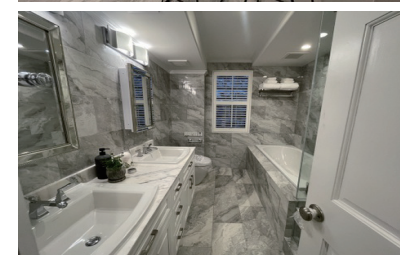


昭和の(笑)コンビが成功者を一言でイメージさせた田園調布。2024年7月ボックス(株)は日本初のタウンハウス式欧米型住宅「Cedar Creek Community」を竣工しました。従前よりHICPM(住宅生産性研究会)で米国住宅視察を共に繰り返してきた内海健太郎社長による特別内覧会に参加してきました。日本の木造住宅は税法上20年余りで建物の価値が償却されるため、多くは空き家状態や取壊しといった終

焉を迎えます。修繕やリフォームに対する評価基準が日本では確立していないことから、住宅は資産形成には至らず「消費」という形で消えていきます。

一方アメリカでは「マーケットの需要と供給」という点に基づいて住宅価値が決まります。

新築中古に関わらず、デザイン・状態・場所・景観などが需要の指標を満たす限り、その住宅には価値があると評価されます。そのため人々は住宅を大切に扱い、修繕やリモデルを行なうことでその価値を維持向上する努力を惜しみません。取材: 大竹 清彦



★ヌックは家族用サブキッチン(上) バスルーム(下)

★リビング空間
★屋根裏部屋・アティック

アメリカン住宅様式史(第38回) 《インターナショナル様式・1930-1990》



1932年ニューヨーク近代美術館(MoMA)で開催された近代建築展で提唱されたのがインターナショナル様式(国際様式)のはじまり。その特徴は外皮にガラスや断熱パネルといった構造を兼ねた枠組みを用いている。装飾デザインは極力割愛し例えは窓や扉周りの装飾はシンプル外壁は石灰岩色もしくは乾いた粘土色に抑えられた。日本のハウスメーカーがこの様式を採用し陸屋根や外壁のスタッコ、窓のカーテンウォールなどを流行らせた時期がある。最も有名なのはパリ近郊にある

ル・コルビジエのサヴォイ邸(1928年)でニューヨーク近代美術館に展示されている。

★ネバダ州・サンシティ

開口部とする窓、構造体(柱や梁)の見える建築を特徴とする。

★カリフォルニア州・アーバイン



インターナショナル(国際)様式は、シンプルな格好よさを求めた流行デザイン、モダンムーブメントとしての時代背景が感じられる。半面、流行は時代により飽きられる要素もあり微妙な変化を遂げている。勾配のない陸屋根、建物外壁はスタッコまたはプラスター(漆喰)仕上げ、装飾の排除、アルミニウム、スチール製金属ケースメント・ウインドーの窓、壁面全体を

★1970年代にカーペンターズの兄リチャードが投資で建てたアパート
カリフォルニア州・ダウニー



(次回、ネオクラシカル様式)

*全て筆者撮影

（株）アップル、社員が参加した講習会・イベント

8/7(水)【リフォーム産業フェア2024】東京BIGサイト 主催:リフォーム産業新聞社
8/9(水)【「エネキ」-イノベーション-総合展】東京 主催:(株)エネキ-セクター
9/2(月)【日本の木の家2024】東京 主催:OMY-アール
9/4(水)【LIVING&DESIGN2024】東京BIGサイト 主催:(独)中小企業基盤整備機構

《住宅視察2024年ワシントン州》



エコバウ Blog

毎日掲載中!!

